

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2017 春
vol. 15



冬のキャンプでは枯れ木の下に笑顔の花が咲き、春のキャンプでは新芽と共にまた笑顔がほころびます。(君津亀山少年自然の家)

も く じ

□一灯照隅	…2	□ろくすけ日和	…10
□指定管理の現場から	…3	「ろくすけの屋根」	
□12～2月の現場レポート	…4	□千葉シニア自然大学	
・主催事業		「平群ライフ」	
・ネットワーク・受託事業		□みんなのおおきな食卓	…11
・指定管理施設の主催事業		□会員校・指定管理施設紹介	…12
□こんなことにチャレンジしています！	…7	□スタッフのつぶやき	
□4月～6月 CNS ネットワークイベント情報	…8		

一灯照隅

理事長 飯田 洋

今年もソメイヨシノの開花と共に、千葉自然学校の新しい年度が始まりました。

これまで七十数年この時期を迎えてきましたが、柔らかな風やひかりを身体いっぱいを感じ、厚手のコートを脱ぎ、身軽な装いに気持ちも軽くなるのは、年を重ねた今も変わりません。

毎年4月を迎えると、全職員参加で揉んできた新年度のプログラムがお客さまにどのように受け入れられ、どのような反応があるのか楽しみでもあります。

子どもたちの成長に、自然体験が好結果を生むとの考えのもとに各種事業を展開していますが、多くの参加者を集める苦労は、毎年のことながら今年も相変わらずになるものと覚悟をしています。

2月はじめに創立40周年を迎えた自然体験活動団体の記念式典に出席してきました。

全国から駆け付けた関係者で会場は一杯になっていましたが、代表のご夫妻を先頭に、40年間自然体験活動を継続して来た頑張りに心から敬服し、驚きを感じて来ました。

千葉自然学校も今年で14年目を迎えました。

この間、紆余曲折を経て今日まで来ましたが、いつもお客さまから支持を頂き、自然学校としての使命が果たせるよう明るく元気な組織でありたいと考えています。

新年度早々には、2年間にわたり仮認定NPO法人として活動してきた千葉自然学校が、認定NPO法人になるための手続きに入ります。

晴れて認定NPO法人となったあかつきには、千葉自然学校にとって新たなステージを迎えることになります。

役職員一同、認定NPO法人として誇りと責任をもって経営して行きたいと考えています。

皆様のご支援、ご協力を切にお願いいたします。



「一灯照隅」この後に「万灯照国」と続きます。これは、1つの灯りは隅しか照らせないが、万の灯りは国全体を照らすことができる。転じて、一人一人が自分の役割を懸命に果たすことが、組織全体にとって最も貴重であるという意味の最澄の言葉です。

指定管理の現場から

千葉自然学校は、現在県内にある3ヶ所の施設を指定管理者として千葉県、南房総市からそれぞれ委託を受け、管理・運営を行っています。
このコーナーでは、それぞれの施設での取り組みや想いを皆様にお届けしていきます。

南房総市大房岬自然の家 所長 神保清司

今年に入ってから我が家の子どもに家庭の中のお手伝いを頻繁にさせています。11歳と9歳の姉妹は、何が出来て何が出来ないのかを知るためです。言い方を変えれば親として何を教え伝えないのかを知るためです。どんな手伝いをさせているか具体的にあげると、米とぎと炊飯器へのセット、食器を洗い拭いてしまうこと、仏壇へのお供え、玄関のほうき掛け、猫のトイレの世話、生ごみのコンポストへ投入、畑からちょっとした野菜を採って来ること、料理の補助といったところででしょうか。毎日すべてをやるわけではないので、出来るときにできることを手伝うといった具合です。

子どもが自分でできることが増えると、親も子どもを頼りにして任せることが増えます。お手伝いで学ぶことは沢山ありますが、一番の学びは「誰かに必要とされることの喜びと誇り」を経験することかなと思います。生きる力の不足が問題視されて久しいですが、家庭でのお手伝い経験や環境が大きいなあと感じます。昨今の社会状況から云えば「子ども食堂」などで経験できる様にする必要もあるのでしょうか。



千葉県立君津亀山少年自然の家 所長 庄司達哉

「体験活動とリスクと覚悟」

自然体験活動が子どもの成長にとってプラスの影響を与えるということは、過去の様々な研究やデータによって明らかになっています。一方で、自然体験活動を企画する際には、多様なリスク（危険）と向き合わなければなりません。例えば、森の中で活動を実施する場合には、枝の落下や倒木、危険な動植物、落雷、強風などのリスクが想定されます。食事づくりや宿泊活動の際には、インフルエンザやノロウイルスのような感染症や食中毒、食物アレルギーへの対応が必要です。また「転ぶ、ぶつかる、落ちる」など怪我の恐れもあります。その他にも、個人情報管理やセクハラ・ソーハラなどのハラスメント、肖像権など、私たちが向き合わなければいけないリスクは山のようにあります。



ただ、だからと言ってリスクを恐れ、子どもの体験の場を奪うようなことはしたくありません。もちろん事故は絶対に起こすべきではありません。様々なリスクに対して、しっかりと対策を講じ、「事故0」で、一人でも多くの子どもに体験の場を提供していくこと。これが青少年教育施設の使命であり、そこで働く者が持っていなければならない「覚悟」だと思います。

千葉県立大房岬自然公園 公園長 山口亮介

「県内の動物園のニホンザルで、アカゲザルとの交雑種が判明」との記事が先日話題になりました。外来種に関しては全国各地で昔から問題になっています。大房岬自然公園でも、そんな外来種問題に頭を悩ませています。少しずつ繁殖を拡大しているセイタカアワダチソウ、いつの間にか芝生の広場一面に広がってしまったメリケントキンソウなどなど。このメリケントキンソウがなかなかの問題児で、5～6月に鋭いトゲをもつ種をつけます。地面に手をついたら刺さって血が出るほど。何とか駆除できないかと悪戦苦闘。

現在、区画を区切って地道に手で抜き取ったり、人体に無害な除草剤をまいたり。どういった方法が手間もかからず効果があるか、実験中です。種をつける前になんとか結果を出したいのですが…。この草がなくなったところに、また別の外来種が入り込んでくるのではないかとというのも、新たな悩みの種です。



⑫①②月の現場レポート《主催事業》



週末・子ども

森のクリスマスキャンプ

～ダッチオープンを使ったクリスマス料理・キャンドル作り～

12/23(金)～24(土) 1泊2日 施設泊 君津亀山少年自然の家 年長～小学生

◆ダッチオープン／キャンドル作り／サンタ大作戦



今回は参加者48名、スタッフ15名、総勢63名のキャンプとなりました。

ダッチオープンでつくる鶏のコーラ煮は柔らかくジューシーで、子どもも大満足でした。

夜はサンタになってドキドキワクワクのサンタ大作戦！広い館内を冒険し、課題をクリアするためにお友達と協力し楽しい時間を過ごしました。

2日目は、クリスマスの思い出に、または誰かのプレゼントにと、ジェルキャンドルをつくりました。

もらうだけでなく自分でつくりだす楽しさ、みんなでつくりあげる楽しさを、少しでも感じてくれたと思います。

週末・子ども

スノーあそベンチャーキャンプ

～雪にまみれろ！レッツスノーあそベンチャー～

12/23(金)～25(月) 2泊3日 施設泊 国立妙高青年自然の家 小学生

◆ソリ遊び／雪合戦／かまくら作り



今回は参加者18名、スタッフ8名、総勢26名のキャンプとなりました。

バスでの長い移動の後、子どもは夢中で雪遊びをしていました。

2日目になると、大人の膝くらいまでふかふかの雪が積もり、飛び込んだり、転がったり、パウダースノーを体験できました。

雪があれば、遊びはどんどん広がっていきます。雪合戦、雪だるまやかまくらづくりだけでなく、雪の中に埋まってみたり、木につもった雪を落としてみたり、子どもらしい発想の遊びが3日間通して見られました。

週末・子ども

石窯クッキングキャンプ

～石窯でパンやピザを作ってみよう～

1/28(土)～29(日) 1泊2日 施設泊 君津亀山少年自然の家 年長～小学生

◆パン作り／ピザ作り／石窯



参加者20名、スタッフ8名で実施しました。よく晴れた日で、暖かく過ごしやすい2日間でした。

みんなが集合すると「クッキングはまだ？」と料理が楽しみで仕方ない様子。いざ料理が始まるとみんな夢中になって取り組みました。

心待ちにしていたクッキング、班のみんなと交代しながらよく生地をこねていました。幼児から小学生の班で協力して作業を行い、美味しいパンとピザを焼き上げました。

作ってみたい、やってみたいという挑戦する気持ちをいつまでも大切にしていきたいと思います。

週末・子ども

カステラとお菓子の家づくりキャンプ

～カステラ・クッキーを焼いてお菓子の家を作ろう！～

2/25(土)～26日(日)1泊2日 施設泊 君津亀山少年自然の家 年中～小学生

◆ダッチオーブンでカステラ/石窯でクッキー/お菓子の家づくり



今回は参加者39名、スタッフ10名、総勢49名の大所帯キャンプとなりました。

1日目は「ぐりとぐらの絵本」に出てくるふわふわのカステラ作り。卵と砂糖を混ぜ合わせる時は、全員が関われるように「1、2、3、4、5…」と、数を数え交代しながら作っていました。

2日目の「お菓子の家づくり」では、作っている途中で家が崩れてしまう班もありましたが、みんなとても楽しそうに家の組み立てや飾りをつけていました。

「自分たちで作って食べる。」単純なことですが、いろいろなことを体験から学べる、とても大切なことだと思います。

大人(シニア)

「房総古道を歩く④」

12/4(日)日帰り 君津市・鴨川市富津市

「山の神を祀る宇藤木大山・頼朝ゆかりの大街道を巡る」コース



郡界尾根古道巡りの2回目。

お天気に恵まれ参加者22名のみなさんと鴨川トンネルの南側から富津市の引越まで歩いてきました。

紅葉にも恵まれ静かな古道歩きを楽しめました。

大人(シニア)

「房総の古道を歩く⑤」

1/21(土)日帰り 鴨川市・富津市・鋸南町

「志駒川より梨沢山・房総アルプスを越え市井原へ」



最高の天気の中、参加者19名のみなさんで郡界尾根を歩いてきました。

展望台からの眺めは素晴らしく、富士山から南アルプスを楽しめました。

大人(シニア)

「房総の古道を歩く⑥」

2/18(土)日帰り 鋸南町・富津市

「郡界尾根フィナーレ・白狐峠・グランドキャニオンから海へ」



天候はいまいちでしたが、郡界尾根フィナーレに参加者18名のみなさんとゴールの元名海岸を目指しました。

古の白狐峠からは、大景観が広がる景色に大感動でした。



受託事業

「都市農山漁村交流活性化事業」

千葉県の「都市農山漁村交流活性化事業」の委託を受け、2月に研修会とセミナーを開催しました。

研修会では、それぞれが地域に帰って自分たちがどのような活動を展開していくかを考えるきっかけ作りとして南房総で活動を展開する[鴨川市農家民泊組合・また旅倶楽・白浜地域づくり協議会「きらり」]の活動事例を聞き、午後には実際に体験を受け入れる際の心構えやポイント伝え方・安全管理の講習を行いました。

一方、県庁で開催したセミナーには、立教大学観光学部の東教授と千葉大学大学院の大江教授による「農泊・民泊も大をどう捉えるか～整理と展望～」 「ちばならではの農村ツーリズム（エビデンスベースの交流型ビジネス）」の講演に合わせ、具体的な活動事例として南房総におけるエコツーリズムの取組を千葉自然学校から紹介させていただきました。

どちらも濃厚な1日となりました。今後もゆるやかなネットワークで、それぞれの場所から千葉県を盛り上げていければと思います。

(文：佐藤玲子／かつを)



南房総体験活動ネットワーク

「南房総体験活動ネットワーク協議会 研修会実施」

「南房総体験活動ネットワーク協議会」は、館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町の3市1町の、体験活動事業者・宿泊事業者・行政機関などから構成されており、千葉自然学校が事務局となっている広域の協議会です。



2月13日(月)に、本協議会主催の研修会を実施し、30名以上の方にご参加いただきました。

テーマは「発達障害を持つ子どもの特性と接し方について」です。千葉県立君津特別支援学校の小林哲子先生を講師にお迎えし、発達障害についての基本的知識と子どもの特性などについてお話しいただきました。

目の前の子どもの性格や特性をよく理解し、気持ちに寄り添うことが大切で、教育旅行などでの体験活動は、短い時間の中での接し方になるので、先生方や保護者の方からできるだけ情報をもらうことが重要とのこと。

より良質で安全な体験活動につながる学び多い研修となりました。

(文：白井健／ネギ)



北総事業部会

「東京クラシッククラブ 馬主クラブ視察」

今年度新たに自然学校に入会された「東京クラシッククラブ 馬主クラブ」へ、北総事業部会のメンバーで視察に行ってきました。

千葉市とは思えない自然豊かな広々としたフィールドと高級感あふれるゴルフ施設。そこに併設された馬場では、大人しく人懐こい馬たちとの触れ合いや、乗馬体験も可能な場所となっています。

そのほかにもクラインガルテンや、野外体験が可能なフィールドなどもあり、まさに“カントリークラブ”の本来の意味である田園生活を楽しみながら休養できる社交場としてふさわしい、今までのゴルフ場のイメージを一新するような、まったく新しいコンセプトで展開されているのが印象的でした。

北総メンバーが得意とするのは、農産物や食の加工販売、クラフト体験と自然遊び。自然学校のネットワークを活かして、これからどのように一緒に活動できるか楽しみです。

(文：石井智子／かみい)



■こんな取り組みもしています■

ホームページリニューアル予定！

今やフェイスブックやインスタグラム、ツイッターなど、SNSは情報の発信や収集になくてはならない時代になりました。自然学校のホームページも、みなさまのニーズに合わせて情報をわかりやすく提供できるようリニューアルを予定しています。ご期待！

《指定管理施設の主催事業》

南房総市大房岬自然の家

「南房総ロングトレイル」

南房総市富浦町にある「道の駅とみうら枇杷倶楽部」を起点に、「岩井海岸」、「富山」、「伊予ヶ岳」、「大山千枚田」、「みんなみの里」、「花嫁街道」などを通り最終地点「道の駅和田浦 WA・0!」までを、全6回に分けつないでいく総距離約59kmのトレイルです。2月までに5回を終了し、残りは3月に実施する1回のみとなりました。これまでは天気恵まれ、気持ちよいトレッキングが続いています。道中は、山頂から里海山を見渡せる絶景に息をのみ、信仰深かった先人の遺構や石仏に想いを馳せ、南房総の農業・漁業の様子をじかに見ることができます。



大房岬自然の家にある食堂の料理長手作りのお弁当も楽しみの一つです。登山ではなく、魅力ある「道」をつなげ、南房総の魅力を体で感じ、ゆっくりと歩くトレッキングの旅です。来年度も新しいルートを開発中ですので、是非ご参加ください。（文：白井健／ネギ）

千葉県立大房岬自然公園

「岬レンジャー 岬の秘境探検」

自然公園を守り、生き物の調査や公園利用者へ自然情報をお伝えする“レンジャー”になって大房岬を探検するイベントです。年4回のイベントの最終回は秘境探検！不思議な伝説の残る“弁財天洞窟”の調査を行いました。この洞窟には、勇ましい猟師が犬と共にこの洞窟に入っていたが行方不明になってしまったという伝説が残っています。洞窟がどれくらいの深さなのか？奥はどうなっているのか？ランタンを片手に真っ暗闇の中を進みます。子どもがやっと入れようとするすきまを超えて、全員大興奮でどろだらけになりながら洞窟の終点にたどり着きました。

伝説によると館山市の那古まで洞窟が繋がっているということだったのですが、奥までの距離は36.3m。自然公園では調べたことのない記録を取ることに成功しました。

最後に年度を通して参加してくれた5名のレンジャーたちの表彰式を行い、今年度の岬レンジャーの活動に幕を閉じました。自然公園の特色あるイベント“岬レンジャー”は来年度も開催予定です。

（文：飯塚伊代／まりも）



千葉県立君津亀山少年自然の家

「森っこあそベンチャー⑤たき火でおやつパーティー」

2月12日（日）に5回目の森っこあそベンチャーを実施しました。4～6歳の子どもを対象に、森の散歩や落ち葉遊びなど、遊びを通して自然と触れ合う活動をしています。今回は19人の子どもが集まってくれました！まずは、みんなで森探検に出発です。たき火に使う“すぎっぱ”（杉の葉）や木の枝を集めました。「硬い！」「チクチクしてる！」初めて触った“すぎっぱ”に興味津々。足元に目を凝らして、たくさん集めました。集めた“すぎっぱ”はよく燃えるため、焚き付けに適しています。最後はみんなでおやつパーティーです♪マシュマロやリンゴ、バナナ、ウイナー色々なものをたき火で焼いていただきます。たき火で暖を取りながら美味しい楽しい時間を過ごしました。



きみかめでは、子どもだけでなく家族で楽しめるイベントを実施しています。平成29年度も沢山のイベントを企画していますので、是非きみかめにお越しください♪（文：花香皓仁／ハナ）

こんなことにチャレンジしています！

「寄付金事業」

NPO法人千葉自然学校は、平成27年4月1日付けで「仮認定特定非営利法人（以下仮認定NPO法人）」として千葉県より認定されました。この認定により、多くの皆さまからのご寄附をお願いすることとなりました。いただいたご寄附をより良い方法で活用するため、千葉自然学校が指定管理者となっている「君津亀山少年自然の家（以下きみかめ）」と、きみかめと同じ君津市内にある児童養護施設の「はぐくみの杜君津」とのコラボ事業が、平成28年度にスタートしました。

コラボ事業は年4回の企画を固定のスタッフ6名（千葉自然学校2名、ボランティア2名、はぐくみの杜君津2名）で実施し、前半の2回は日帰り事業、後半の2回はそれぞれきみかめと古民家ろくすけに宿泊しました。

活動内容は子どもの体験したいこと、大人が「子どもに体験させたいこと」を上手く絡めながら企画し、どの回も「大人が本気で子どもと向き合い、一緒に楽しむこと」を大切に過ごしました。

4回の事業を通して、子どもは少しずつ自分の気持ちを自分の言葉で表現できるようになり、様々な体験を通して次第に自信をつけていったように見えます。

平成28年度は幼児と小学生が参加の対象でしたが、新年度は更に中高生を対象に活動できないか検討しています。これからも子どもがより健やかに成長していけるよう、そしてたくさんの子どもの子どもがより良い体験を積み重ねていけるように、我々スタッフも楽しみながら子どもの体験を支えていきたいです。（文：齋藤みゆき／みら）





4 月

沖合イルカウォッチング

ウォッチング専用船フリッパーへ乗船し、野生のイルカに会いに行こう！メインは”カマイルカ”。この時期は出産・子育てのため、生まれたばかりの仔イルカに出会えることも！

【開催日】4月～5月

【出航時間】10：30～（1日1便）

※G・Wのみ8：00～、13：00～（1日2便）

【対 象】10才以上 定員30名 ※要予約

【参加費】大人（高校生以上）6,500円、子ども5,000円

【会 場】銚子海洋研究所（銚子市）

【連絡先】有限会社 銚子海洋研究所

TEL：0479-24-8870

<http://www.choshi-iruka-watching.co.jp/index.html>

手作り味噌教室

地元大豆とコシヒカリで、安心で美味しい、昔ながらの無添加味噌を作ります。お昼に石窯ピザ体験をご希望の場合は別途ご予約ください。（ピザ1枚1,000円）

【開催日】4月2日（日）、5日（水）、9日、11日（火）

【時 間】10：00～13：00

【参加費】1回2,100円（味噌3kg、追加1kg800円）

【申込締切】7日前（要予約）

【定 員】20名程度

【持ち物】作業着、ゴム手袋、タオル、持ち帰り用容器

【会 場】「わたしの田舎」谷当工房（千葉市）

【連絡先】「わたしの田舎」谷当工房

TEL & FAX：043-239-0645

E-mail：yatoukoubou@gmail.com

ピザ焼き体験

レンガ作りのピザ窯で、手作りピザに挑戦しよう！

【開催日】4月22日（土）

【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,600円

【会 場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

「鴨川の石造物百選」をめぐる（鴨川・田原地区）

地域に暮らす人々がその思いを託した石造物を、当時に思いを馳せながらめぐります。約10km。舗装道路。

【開催日】4月25日（火）

【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,300円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

釣りきち探検隊①合宿

人気釣りキャンプ新シリーズ第一弾！まずは合宿で釣りの基本と安全をおぼえよう！

【開催日】4月29日（土）～30日（日）

【対 象】小学生

【参加費】一般16,000円、会員13,000円

【会 場】古民家ろくすけ（南房総市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校 予約センター

TEL：043-224-1400 E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp



5 月

カヌー&フィッシング

カヌーで亀山湖に漕ぎ出そう！魚を釣り上げよう！

【開催日】5月3日（水）～5日（金）

【対 象】小学生

【参加費】一般33,000円、会員30,000円

【会 場】君津亀山少年自然の家（君津市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校 予約センター

TEL：043-224-1400 E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp

～春の星空観察会～ スターキャンプ鴨川

月・木星・春の星座たちの観察をします。こども対象の望遠鏡操作体験会も実施します。マイ望遠鏡持参可。君津天文同好会との共催イベント。

【開催日】5月20日（土）16：00～20：30

【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】100円

【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

野鳥観察会

日本野鳥の会会員とともに、野鳥の森園内や周辺の野鳥の観察会を行います。

【開催日】5月20日（土）

【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】600円

【会 場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

新緑の森の自然観察会

オオルリやセンダイムシクイなどの夏鳥をはじめ、野鳥や季節の花などを楽しめます。フィールドスコープや双眼鏡など最新機器の体験もできます。林道歩き約4km。

【開催日】5月21日（土）

【対 象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】500円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会 場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

手打ちうどん作り

家庭でも出きるうどん作りと、竹を使った箸を作ります。

【開催日】5月27日（土）

【対 象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,000円

【会 場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

釣りきち探検隊②シロギス釣り

日帰りプログラム。リールの基本を覚えよう！

【開催日】5月27日（土） ※予備日28日（日）

【対 象】小学生

【参加費】一般6,000円、会員5,000円

【会 場】東京湾内湾

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校 予約センター

TEL：043-224-1400 E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp



6月

沿岸イルカウォッチング

銚子の海にすむ沿岸性の野生のイルカ”スナメリ”に会いに行こう！つぶらな瞳で希少なイルカ、多い時には200～300頭の群れに出会えることも！

【開催日】6月

【出航時間】11：30～、13：30～、15：30～（1日3便）

【対象】3才以上 定員40名 ※要予約

【参加費】大人（高校生以上）3,500円、子ども2,500円

幼児1,500円

【会場】銚子海洋研究所（銚子市）

【連絡先】有限会社 銚子海洋研究所

TEL：0479-24-8870

<http://www.choshi-iruka-watching.co.jp/index.html>

千葉県民の日 海の自然体験学校

千葉県民限定！イルカウォッチングと磯の観察会がセットになったお得なプログラムで、なんと子どもは無料！大自然の中で磯の生物を探したり、野生のイルカに会いに行ったり、1日中海を楽しめる、海好きにおススメのプログラムです。

【開催日】6月15日（木）10：00～16：30頃

【対象】千葉県民 3才以上の親子限定（保護者同伴）

定員40名 ※要予約

【参加費】大人（高校生以上）5,000円、中学生以下無料

【会場】銚子海洋研究所（銚子市）

【連絡先】有限会社 銚子海洋研究所

TEL：0479-24-8870

<http://www.choshi-iruka-watching.co.jp/index.html>

初夏の嶺岡ハイキング

白滝不動～嶺岡浅間～酪農のさと～嶺岡林道～大山千枚田～大山不動尊まで、初夏の山々と里山の景色を楽しみましょう。約13km。やや健脚向き。

【開催日】6月7日（水）

【対象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,300円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

ヒメボタルに愛隊（夜の森の観察会）

漆黒の闇にキラキラ光るヒメボタルに会いに、夜の森を歩きます。ヘビトンボやモリアオガエルにも会えるかも。雨天時は室内でのお話になります。

*ヒメボタル（ホタル科）体長7mm程の陸棲のホタル。

6月中旬～7月上旬頃、夜中をピークに歯切れ良く明滅する。

*6/1～7/21の間、林道奥谷線は17:00から翌朝9:00まで車両通行止め。

【開催日】6月17日（土）、22（木）、24日（土）

【対象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】大人500円・4才～中学生300円、

4才未満100円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

石窯パン作りに挑戦

レンガの石窯でパン作りに挑戦してみましょう。

【開催日】6月10日（土）

【対象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,200円

【会場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

手作り鉢とガーデニング教室

板を使って鉢を作り、夏の草花の寄せ植えを作ります。

【開催日】6月24日（土）

【対象】どなたでも（小学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,600円

【会場】館山野鳥の森（館山市）

【連絡先】館山野鳥の森

TEL：0470-28-0166 FAX：0470-28-0187

「藍染め」に挑戦

古くから愛されてきた藍を使ってストールを染めます。好きな絞りで模様を入れて自分だけの作品作りを楽しみましょう。

【開催日】6月11日（日）

【対象】どなたでも（中学生以下のお子様は保護者同伴）

【参加費】1,700円（森の宿「せせらぎ」宿泊の方参加費半額）

【会場】内浦山県民の森（鴨川市）

【連絡先】内浦山県民の森

TEL：04-7095-2821 FAX：04-7095-2822

獲って食べる！地引網とお魚クッキングキャンプ

自分たちで獲ってさばいて食べまくる！お魚クッキングをたのしもう♪

【開催日】6月10日（土）～11日（日）

【対象】年中～年長、小学生

【参加費】一般18,000円 会員15,000円

【会場】君津亀山少年自然の家（君津市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校 予約センター

TEL：043-224-1400 E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp

パティシエキッズキャンプ①スイーツピッツァ

パティシエになってお菓子を作って食べよう！チョコやマシュマロをのせたスイーツピザを作ってみよう♪

【開催日】6月24日（土）～25日（日）

【対象】年中～年長、小学生

【参加費】一般16,000円 会員13,000円

【会場】君津亀山少年自然の家（君津市）

【連絡先】ハロートラベル千葉自然学校 予約センター

TEL：043-224-1400 E-mail：cns-camp@aroma.ocn.ne.jp

★他にも楽しいイベントもりだくさん！

Webをチェック！ 検索

★F B、ツイッター、ブログで情報更新中！



●ろくすけ日和『ろくすけの屋根』

千葉自然学校では、築180年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進めながら、子ども・大人のキャンプで活躍中です。時々テレビにも出ています！

みなさんこんにちは。立春を迎え、ろくすけ周辺もだんだんと春めいてきました。が、今年はなぜか春一番、二番、三番…と、強風が吹き荒れる日が多くなっています。庭の植物や動物達もびっくりしているでしょうね。そんな風や雨でずいぶん傷んでしまったろくすけの屋根ですが、1月から主に裏側の改修作業が始まりました。

専門の職人さんと地元の大工さんの協力のもと、カヤの差し替えと木の剪定で、ろくすけは毎日大賑わい。そして葺き替え作業をするにあたり必要なのが、大量のカヤと人手。そこで千葉県が今年から始めた中山間地域で地域活性化を支援する「中山間ふるさと活性化チャレンジ事業」の一環で、流山農業高校の生徒が作業に参加してくれました。

まずは昨年の12月、千葉自然学校職員と近くのゴルフ場にてカヤ刈り&束ね作業を行いました。屋根に使う「カヤ」はどんな植物かを聞いてから職員が刈り、その後高校生と職員で束ねるという作業、慣れない作業で苦戦している生徒もいましたが、気づけば広大なカヤ畑が束で埋め尽くされました。

職人さん、地域のお父さん、高校生、私たち職員…数多の手で作られた屋根は3月には完成予定。きっとこのニュースレターが皆さんの手元に行く頃には、新しい屋根に生まれ変わっている事でしょう。これで、ろくすけで滞在される方を雨風から守ってくれますね。

今度ろくすけにいらっしゃる際は、庭の風景だけでなく母屋の裏側も見てみて下さい。新しく生まれ変わった茅葺きの屋根が、皆さんに会えるのを楽しみにしていますよ。

(文：かやぶき屋根の古民家ろくすけ住人 山崎大地／だいすけ)



●千葉シニア自然大学 「平群ライフを楽しむ」

古民家「ろくすけ」の縁で、平久里を訪れるようになった。「ろくすけ」は落語に出てくるような名前をもつ古民家の屋号だ。これを活用して都会の子供達に農村生活を体験してもらいたいと夢を描いたのが千葉自然学校の遠藤陽子（事務局長・当時）さん。その夢に共感し平久里を訪れるようになった。

平久里は東京湾と太平洋まで車で30分とかならない南房総の山間の村で、南総の名山、伊予ヶ嶽と富山がランドマークだ。「平群」とも書く。同じ地名が奈良近郊にもあり、この地を古代の幹線道路「古東海道」が通り抜けており、平城京からこの地にやってきた天平人が都を偲んで名づけた名前であろうか。

“房総一の景観”と、房総の自然を知り尽くした中村俊彦さんが褒め讃える里は、「にほんの里」と呼ぶに相応しい。人々の暮らしに育まれた健やかで美しい里山というお墨付きも得ている。（朝日新聞社と森林文化協会）

平久里で「ろくすけ」を拠点に50名位の仲間が農業や自然に触れる活動を行っている。地域のミカン農家の援農を買って出るなど地域にも積極的に溶け込んでいる。ろくすけは寝泊りができるので、農作業が終わった後に、活きの良い海の魚を安く仕入れ美味しい海の幸を満喫できるのが楽しみだ。囲炉裏を囲んで仲間と酒を酌み交わしながらの尽きない四方山話も刺激になる。常時平久里に出向いているのは末綱リーダーや10数名の会員だが、今年は多くの5期生OBが加入してくれた。心強い。自然や農的生活に触れあえる田舎が身近にあることは、都会人には嬉しい限りだ。

(文・写真：浅井信)



みんなのおおきな食卓

～遠藤さんの郷土料理のお話～

南会津から「ばんでい餅」が届きました。1月末に農家民泊の視察に南会津町に行った際、千葉の郷土料理の性学もちに似たこの餅の話を聞きました。

昔、この地域の館岩村では、山仕事や杓子やへらを作るために山に入り何日も山の小屋で暮らすことが多かったそうです。標高700mを超えるこの地域では、もち米の収穫もままならず、うすも杓もない山小屋で、うるち米を炊いて木の切り株（盤台）の上で斧を使ってたたいて作ったところから“ばんでい餅”の名がついたそうです。性学もちとの違いは、米の浸漬時間と炊くか蒸すかの違いです。性学もちと同じようにのど越しがよく歯にもつきにくく食べやすい餅です。かたさは、性学もちが一番柔らかく、次いでばんでい餅、もち米でついた餅の順です。

大原幽学が、どんなところから性学もちの作り方のヒントを得たのだろうかと長年不思議に思ってきました。全国行脚の中で得た様々な情報から生まれたのだろうと想像されますが、もっともって全国的な米を使った料理法と、米を炊く、米を蒸す調理法の歴史も手繰ってみたいと思っています。

（文：遠藤陽子／サニー）



松田料理長のおすすめしじい～南房総の郷土料理～

<調味料の歴史>

○砂糖

砂糖の語源は“サルカラ”で、原産地はインドが有力だと思われる。紀元前にアレキサンダー大王がインド遠征の時にインダス川の谷間でさとうきびを発見し、6～7世紀には糖汁を凝結させた粗糖の生産がみられ、コロンブスによってアメリカ大陸に持ち込まれ、適地として増産された。19世紀に入って、ナポレオンの大陸封鎖令で砂糖が欠乏し、甜菜糖生産の糸口となった。

○塩

ローマ時代に役人や兵士に給料として塩（スペイン語でサル）が支給された。俸給を意味する“サラリー”は塩を支給する意味で、サラリーマンの語源ともなっている。マルコ・ポーロによれば、13世紀のチベットでは塩が貨幣として使われていた。日本では、奈良時代の中頃に京都と奈良で“塩座”がつくられ、組合員は専売権を握っていた。近世になって諸大名は製塩事業に力を入れた。武田信玄が宿敵上杉謙信から塩を送られた有名な話もある。

○酢

酢は人間の作りだした調味料の中でもっとも古いものの1つであり、クレオパトラがアントニオと、1回の食事で全財産を使い果たすことができるかとの賭けで、真珠を酢に溶かして飲んだ話もある。聖書にも、賢人は酢が好きだと記されている。日本では、酢が普及する以前は、梅の塩漬けからとれた梅酢が使われていたが、応神天皇の頃に中国から伝えられ、江戸時代時になって酢が大量生産されるようになった。

○醤油

醤油が商品化され普及し始めたのは15世紀の室町時代の頃といわれ、和歌山県の湯浅町から現在の関東の醸造家は、いずれも紀州に祖先を発している。紀州出身の浜口儀兵衛が、銚子で醤油を始めたのが天保2年で、17世紀の前半に千葉県銚子に田中（ヒゲタ）・浜口（ヤマサ）、野田に高梨と茂木（キッコーマン）が醸造所を開き、現在でもこの3社の製品は3印と呼ばれて伝統を誇っている。江戸初期には関西から醤油が運ばれて、下り醤油といって珍重された。千葉に醤油業が発達した理由は、大消費地の江戸を控えていたことと、水質が適したうえ原材料の搬入に水利の便が良かったことなどがある。

○味噌

味噌は日本の伝統的な調味料で、手前みその言葉が示すよう、土地によって北国の味噌は辛く南国の味噌は甘いというように、様々な味と香りがある。味噌の発祥はきわめて古く、紀元前200年代に古代中国で食されていて、発祥地は西域地方と推定される。当時は“クキ”と呼ばれていた。日本には中国から朝鮮を経て、大和時代から奈良時代に伝えられた。また、日本律宗の開祖で唐招提寺を開いた唐僧鑑真が、中国から持ち込んだという説もある。そして、兵食として武将が製法を研究し、塩が入手困難な東北や山岳地帯で必需品として発展をみせ、庶民の食品と変わってきた。味噌の語源は「蒸し」から転じたもので、関西の一部では“ムシ”または“オムシ”と呼んでいる。元禄時代に、江戸を中心にして多くの味噌醸造業者が出現した。工業的に発展したのは、明治10年ごろからである。

（文：松田光央）

●団体会員（36団体）

NPO 法人大山千枚田保存会、岩井民宿組合、ヤックス自然学校、(株)ちば南房総、千倉オレンジセンター、NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団、「わたしの田舎」谷当工房、NPO 法人佐倉みどりネット、森林塾かずさの森、(有)みねおかいさいき館、(一財)千葉県観光公社、上総自然学校、NPO 法人安房文化遺産フォーラム、(株)かずさアカデミアパーク、食と農の体験工房「よもぎ館」、千倉民宿組合、千葉県酪農のさと、ぬく森くらぶ、自然の宿「くすの木」、リゾートイン白浜、Live Stock(ライブストック)、さんむアクションミュージアム、市津・ちはら台自然楽校、NPO 法人里山会(勝浦エンゼルアドベンチャーランド)、千葉伝統郷土料理研究会、ひらつか地域活性化協議会、ピーちゃんクラブ、NPO 法人ちば里山センター、森の時計・自然工夫塾、ELFIN 体験共育くらぶ、NPO 法人千葉・草原のこころファーム、(一社)森のようちえんはっぴー、環南みんなの楽校、(一財)千葉県環境財団、(有)銚子海洋研究所、東京クラシッククラブ

●賛助会員（6 団体）

館山日東バス株式会社、(財)ちば国際コンベンションビューロー、株式会社富楽里とみやま、株式会社HMC 東京 旅行事業部、スコープジャパン株式会社、林造園土木株式会社

指定管理施設

現在、県内にある3ヶ所の施設を指定管理者として管理・運営しています。

- ・南房総市大房岬自然の家(千葉県の施設として平成17年9月～平成20年3月)
(南房総市の施設として平成20年4月～)
- ・千葉県立大房岬自然公園(平成18年4月～)
- ・千葉県立君津亀山少年自然の家(平成20年4月～)



千葉県立大房岬自然公園



南房総市大房岬自然の家



千葉県立君津亀山少年自然の家

運営施設

- ・かやぶき屋根の古民家「ろくすけ」(平成16年5月～)
- ・千葉県立中央博物館ミュージアムショップ(平成26年4月～)

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ

- ・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
- ・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
- ・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

■久しぶりに房総の山歩きに挑戦。足首、ふくらはぎにシブ薬を貼っての参加。二万八千歩で無事に踏破。まだやれると自信をもって帰って来ましたが、その夜に大腿部が痙攣。でもチャレンジの気持ちは失くしません。

(オーシャン)

■気づいたら体験農園も4年目を迎えました。農と食・健康を体感するフィールドがどんどん広がってほしい。(サニー)

■春と云う季節が嫌いな訳じゃない！花粉症を引き起こすスギ花粉が飛散する春が大嫌いなのだ。(ボクサー)

■連日ろくすけにいと、天気と風の動きが読めるようになりました。(ぺったん)

■寒い冬から、身体に優しいポカポカ陽気の春。気持ちはビシッと引き締めて新年度を迎えよう。(たこはち)

■千葉の山に興味しんしんです。歴史と重ね合わせ歩く、学ぶ。とても広く楽しい世界です。(アリ)

■『風が吹かないなら風をおこす』自分の心持ち考え次第で、感じ方は変わる。楽しく走ろう！(けろっぴ)

■旅立ちの季節です。自然学校のスタッフも何名か。次に会う時はお互い成長した姿で！(かつを)

■春になると、心がリフレッシュします。季節感あふれる、千葉に感謝。(のりべん)

■新しい年度がスタート。健康で楽しい毎日になるよう頑張ります。(らうす)

《編集後記》

インド洋に浮かぶ“島々の花輪” モルディブへ行ってきました。水色の海と白い砂浜、色とりどりの熱帯魚と優しい人々に感動！千葉の海も、同じように美しいなあと思いました。(かみい)

認定NPO法人を目指して～ご寄付お願い～

寄付金額が3,000円以上である寄付者様を募集しています。当法人の活動にご理解、ご支援いただける方はぜひご支援ください。

▼振込先(郵便局)▼

【郵便振替口座番号】00170-5-259431

【加入者名】特定非営利活動法人 千葉自然学校

▼振込先(銀行)▼

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

特定非営利活動法人 千葉自然学校

【寄付金額】3,000円より

※領収書を発行いたしますので、お名前、ご住所、ご連絡先を必ずご記入ください。

発行： **NPO法人 千葉自然学校**

千葉自然学校ニュースレター(年4回発行)

■千葉事務所 〒260-0015 千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話：043-227-7103/FAX：043-202-7237

ホームページ：<http://www.chiba-ns.net> メールアドレス：info@chiba-ns.net

